

**J** **apanese text**

2010年 秋/冬号 日本語編

**工芸**

**京都で伝統工芸を習う**  
——工房を訪ねて匠の技に触れる

撮影=坂本正行、齋藤幹朗  
文=遠藤賢子 執筆協力=吉田祐子

p.072

京都の職人さんたちは、今、国内外からこの古都を訪れる人たちに、より京都の伝統工芸に親しんでもらおうと、彼らの工房を開放している。工房の多くは由緒ある個人宅で、参加者は目の前で職人の手作業を見学できる。お店で見たり買ったりするだけでなく、自分で制作工程を経験してみることができ、旅もいっそう想い出深くなるだろう。

左・彫刻刀で絵柄の周りを彫り絵の具をのせて、上から紙をあてて手で摺る京版画。

左上・時絵の最も重要な作業である金粉蒔きは、熟練の技が要求される。  
右上・涼しげな花籠を、竹を編んで自分好みの大きさに仕上げていく。  
右下・日本最古の染色技法といわれる絞り染めの工程。生地を染色液に浸して染め上げる。

**籠**

——自作の竹籠を持ち帰って花を活ける

p.074

夏の花は陶器の花瓶ではなく竹籠に活けることで、より清々しく見える。この竹籠の作り方を職人さんに習える店がある。曲げても折れにくい強度と美しい光沢をもつ「京銘竹」を用いて、約90年に渡り竹細工製品を作り続ける「神田竹細工店」だ。2階にある工房で、真竹を使った竹花籠の制作指導をしてもらえる。まずは3代目で竹細工職人の神田智弘さんが、竹の種類や編み方についての説明をしてくれる。その後、16本の竹ひごを使い、籠の底の部分から編んでいく。編み方は何百とあるが、基本となる四ツ目編みで底を編み、四方を立面に立ち上げていく。編み目が間違っていないか、神田さんが随時確認してくれる。サイズは自分が作りたい大きさに調整することができる。欧米では美術品である竹細工を、簡素なものとはいえ自作できるのは貴重な機会だ。

上・完成した手まり形の花籠。左/置時計 2万4885円。  
中・1階の店舗では、「京銘竹」を使ったさまざまな工芸品が販売されている。  
右・底を編むときは、竹ひごが交互になるように編んでいく。

■神田竹細工店

京都市東山区清水二年坂下349 Tel.075-561-7686  
10:00～18:00 無休 花籠体験 2500円（1時間30分～2時間）  
4名～、7日前までに要予約

**西陣織**

——緻密な技の積み重ねによる豪華絢爛な織物

p.075

京都の西陣一帯で織られている「西陣織」。あまたある織物の中でも、豪華絢爛な文様、格調高い色合いで、国内外で不動の評価を得ている。古典だけにとらわれず外国の模様を取り入れ、常に進化しているのも西陣の特長だ。この西陣織製造会社が手がける「織成館<sup>おりなずかん</sup>」では、全国の手織物、能装束、時代装束などを展示している。また、旅行者でも職人に直接教えてもらいながら、手織りテーブルセンターを作ることができるのでぜひ挑戦してみよう。手織りは経糸400本に好きな色の緯糸<sup>よこいと</sup>を選ぶことができるから、オリジナルの作品を制作できる。選んだ緯糸を杼<sup>ひ</sup>に装着したら、両手両足を使って織り始めてみよう。カタンコトンと機織の音が響き、これも旅のよい想い出になりそうだ。

中央・体験で制作する西陣織のテーブルセンター。  
右・杼<sup>ひ</sup>を使って緯糸を右から左に、左から右へと渡していく。実際に手作業を経験してみると、西陣織の緻密さを実感できる。左上/西陣織を使った新しいデザインの商品も。バッグ1万8900円とワインクーラーバッグ9450円。左下・隣接するショップでは店オリジナルの商品や西陣織の帯などを購入できる。

■織成館

京都市上京区浄福寺通上立売上ル大黒町693 Tel.075-431-0020  
10:00～16:00 月曜定休 手織り体験 5000円（3時間）  
1名～、3日前までに要予約

## 京漆器

——風情ある京町家で蒔絵を描く

p.076

「蒔絵平野」は、伝統工芸士である平野雄一ひらのゆういちさんが住む伝統的都市住宅「京町家」が工房になっており、ここで京漆器に触れることができる。京漆器とは京都で生産される、漆を塗った器やお盆、茶道具のこと。室町時代(1338～1573年)以降、茶の湯文化とともに栄えてきた。

京漆器には金銀粉が使われ、華やかな加飾がなされる。まず器に漆で図案を描き、粘着力のある漆が乾かないうちに金や銀の細かい粉を蒔く。この作業は職人の高い技術が必要なため、平野さんが目の前で行ってくれる。体験者は花や富士山などの図柄に、漆で色を塗る作業を实践させてもらえる。蒔絵の工程を実際に見ることで、大変な手間がかかる漆器の貴重さに触れることができるだろう。

上・蒔絵体験で描いた菊の花の丸盆。直径 30cm。

左・色を塗るときは厚めにするときれいに仕上がる。

中・指導してくれる伝統工芸士、平野雄一さんの作品。奥から帯留め 3万 8000 円と 2 万円。手前は香合で 3 万円。

### ■京漆器・蒔絵平野

京都市中京区御幸町通丸太町下ル毘沙門町 549

Tel.075-256-4034 10:00～17:00 無休

蒔絵体験 3500 円 (1 時間 30 分～2 時間)。1 名～、要予約

## 組紐

——雅な貴族衣装の飾り紐

p.077

何色もの鮮やかな糸が織り成す色彩が雅な「京組紐」。その技術は奈良時代に唐から伝来し、平安時代には貴族の衣装の飾り紐として珍重され、色の違いで身分の差を示す役割も果たしていた。武士の時代には甲冑など武具の紐として、明治時代以降には着物の帯を締める帯締めとして、京

組紐は時代によってその形を変え今日に伝えられている。

「安達くみひも館」では工房があり、この組紐制作を体験することができる。帯締めを制作するなら、手持ちの着物や帯に合わせて糸玉を選んでみよう。まず先生のデモンストレーションを見てから開始。丸台に糸玉をセットし、糸玉を移動させて組み上げていくと、丸台の中心の穴あき部分に組紐が姿を現す。その組み方は約 3000 種類もある。併設の展示フロアで、組紐に関する歴史を見学するのも興味深い。

上・自分で制作した帯締めには一際愛着も湧く。

左・プロの組紐職人の作品も販売している。

中・上の帯締めには糸玉を 8 つ使用している。

右・参加者の指導にあたる安達美穂あだちみほさん。

### ■安達くみひも館

京都市上京区出水通鳥丸西入ル Tel.075-432-4113

9:00～16:00 不定休 帯締め制作 5000 円 (約 2 時間)、

携帯ストラップ制作 2000 円 (約 1 時間) 1 名～、要予約

## 京扇子

——雅な扇面に自分好みの絵を描く

p.078

「白竹堂」は 1718 年創業の由緒ある京扇子の店。伝統的な京扇子からモダンな扇子や和雑貨を扱う。また、店内では扇面に好みの絵付けをして扇子を作る体験コースを実施している。制作前には絵柄を扇面にバランスよく納めるコツや、彩色を付ける時に気をつけるべき点について、見本を用いた説明がある。水彩絵の具で季節の花や風物詩を思いのままに描いて、自分だけのオリジナルの扇子を作ってみよう。絵付け後は職人の手により扇子に仕立てられて、海外へも発送してくれる。

京都で制作されたのがその始まりという扇子は、蒸し暑いときにおおぐための道具であると同時に、優雅な小物としての魅力も持つ。自宅に帰り扇を開いたとき、古都での風流な経験がより鮮やかに思い出されるだろう。

上・秋の花である桔梗を描いた。右・扇面には色ぼかしの入った和紙を使用している。自分が描いた模様の扇子は使うたびに愛着が湧きそう。左下・親骨が溜塗りの扇子には自分の名前を入れてもらえる。中・京扇子のほか、レースや刺繍をほどこしたモダンなデザインの扇子も豊富に揃う。

#### ■白竹堂本店

京都市中京区麩屋町通六角上ル白壁町 448 Tel.075-221-1341  
10:00 ~ 18:00 水曜定休 京扇子絵付け体験 3800 円  
(約 1 時間 10 分) 1 名～、要予約

## 京金網工芸

——次世代の匠に金網作りを習う

p.079

昔から高台寺近辺は湯豆腐料理で有名。この豆腐をすくうための金網を、亀甲模様や花の模様到手編みで編み上げたものが「金網つじ」の豆腐すくいだ。シンプルな湯豆腐をより美味しくいただくために、豆腐をすくう道具にこだわるという美意識から生まれた道具である。手編みの金網は丈夫で長持ちすると評判で、一般消費者はもちろん、京都の老舗料亭やお菓子司などプロからも支持されている。制作体験では、角型で亀甲模様の豆腐すくいを編み上げるといふ細かい作業を行う。「気持ちが乱れると網目も乱れてくるといいますから、心を落ち着けて編んでいくのがポイントです」と、3代目の辻徹さん。店ではざるなどの調理道具も販売しており、海外からのお客さんにはティーストレーナーなどが人気だ。

上・完成した亀甲文様の豆腐すくい。左・左手前はティーストレーナー 5880 円、右は豆腐すくい 3150 円、奥はオーダーメイド作品である香炉の火屋。右下・上品な店内にはさまざまな豆腐すくいをはじめ、長く愛用できる金網工芸品が並ぶ。

#### ■高台寺 金網つじ

京都市東山区高台寺南門通下河原東入ル枡屋町 362-5  
Tel.075-551-5500 10:00 ~ 18:00 無休  
豆腐すくい作り体験 3000 円 (約 1 時間) 1 名～、要予約

## 京木版

——築100年の京町家で季節感を摺る

木版画技術を今に受け継ぐ京版画の「竹中木版」は、明治 24 年の創業。木版画は飛鳥時代頃に朝鮮半島の百濟から日本に伝わった印刷の技術で、京都に根付いた。「竹笹堂」ではこの木版画体験ができる工房と、作品を販売する店舗がある。体験教室ではまず季節の花々や鳥、小動物など約 30 種類の絵柄から好きなものを選び、版木に下絵を描く。絵心のある人は自分で好きな絵柄を描いてみよう。その後、彫刻刀を使って下絵を彫り色をのせ、上から紙をのせて摺り上げる。摺ったものは葉書や年賀状として送ることができるから、受け取った相手にも喜んでもらえそうだ。

上・木版画体験教室で摺る葉書の例。左・版木を削る際には 4 種類の彫刻刀を使い、プロの仕事と同じように仕上げていく。本格的な版画作りが体験できるのが魅力だ。右・工房は築 100 年の京町家を開放したもので、重要文化財にも指定されている建物だ。

#### ■竹中木版 竹笹堂

京都市下京区綾小路通西洞院東入ル新釜座町 737  
Tel.075-353-8585 10:00 ~ 18:00 (体験教室は 14:00 ~)  
休日曜・祝日 京版画体験・葉書 3000 円 (2 時間)、  
扇子づくり 3000 円+仕立て代 2000 円 (2 時間) 2 名～、要予約

## 黒家紋

——誕生日の花家紋を入れたお洒落な小物

p.080

明治 3 年から京都で黒染め業を担ってきた「馬場染工業」が、8 年前に体験工房をオープンした。ここでは喪服などの礼服に家紋を染め抜く技術である「京都紋付染め」を習うことができる。伝統的な家紋のほかに、四季折々の花をモチーフにしたオリジナルの紋も人気。ハンカチや風呂敷に染料で着色すれば、愛着が湧いて使うのがいっそう楽しみだ。

上・「366日の花個紋」は自分の誕生日の花がオリジナルのマークになる。  
中・コースターに花個紋の下絵を刷り込み、その下絵に沿って着色していく。  
左・ブックカバー 2100円、シルクの中着各 4200円。

#### ■京都家紋工房 柗屋新七

京都市中京区西洞院通三条下ル柳水町 75 Tel.075-221-4759  
9:00～17:00 土曜・日曜・祝日定休（予約がある場合は営業）  
家紋体験 2100円～（基本料）＋素材代（1時間～2時間）  
1名～、要予約

## 京友禅

——雅な京友禅の職人技を学ぶ

染めの着物の中でも、京都で染められる友禅「京友禅」は、雅な柄で知られている。創業 100 年以上続く京友禅型絵工房「丸益西村屋」では、この京友禅の技を多くの人に紹介したいと京町家に体験工房を設立。京友禅には手描きと型紙を用いる型友禅があるが、ここでは多色摺りの版画の感覚で挑戦できる、型友禅の技法「摺り込み友禅」を教えてくれる。

古典からモダン柄まで約 500 種類の図案の型紙から好きなものを選ぶ。使う色の数だけ用意された型紙を、一枚ずつ上から色をのせていく。うまく塗るコツは職人さんが丁寧に指導してくれるので安心。風呂敷やエコバッグ、Tシャツなど、普段使いできる作品に仕上げることができる。

#### ■京友禅体験工房

京都市中京区小川通御池南入ル Tel.075-211-3273  
9:00～17:00 無休 摺り込み友禅体験 2100円（約1時間）  
1名～、要予約

## 京鹿の子絞り

——季節の花や京都の名所が模様になる

完成した模様が鹿の斑点のように見えることから「鹿の子絞り」と呼ばれる絞り染め。「京鹿の子絞り」は、千数百年前から京都で生産されている絞り染め製品の総称だ。工芸館では季節の花や京都の名所などを模様にしたシルクの袱紗を作ることができる。生地の一部を糸で強く絞る作業を繰り返してから染色すると、鮮やかな色の生地に模様が現れてくる。

上・月とうさぎと秋の花の模様が浮かび上がった絹の袱紗。

中・生地を糸でくくって絞ったところだけが白地で残り模様になる。

下・指導にあたる副館長の吉岡信昌さん。

#### ■京都絞り工芸館

京都市中京区油小路通御池南入ル Tel.075-221-4252  
9:00～17:00 不定休 袱紗絞り染め体験 3500円（約1時間30分）  
1名～、要予約